



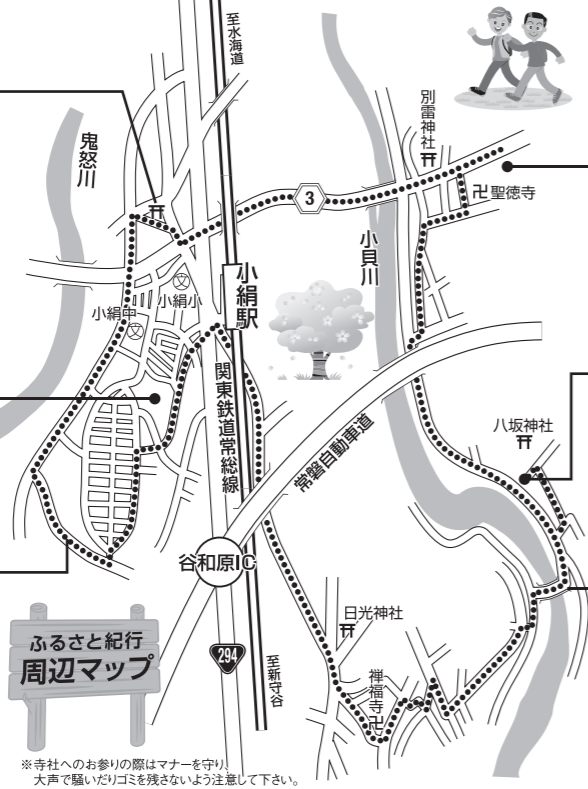
**小絹八坂神社**  
●1502年創建で祭神は素戔鳴命。かつて境内には樹齢300年を超える老松があったが、昭和50年ごろ松食虫が蔓延し伐採される。



**絹の台桜公園**  
●春には多数の桜が咲き誇る。多目的広場や野外ステージ等があり市民の憩いの場となっている。



**せせらぎの小路**  
●つくばみらい市と守谷市の境にある遊歩道。歩道沿いに小川が流れ、この時期は桜が見頃。  
※神社へのお参りの際はマナーを守り、大声で騒いだりゴミを残さないよう注意して下さい。



**JA農産物直売所「みらいっ娘」**  
●地元で採れた新鮮な野菜やお米の直売所。市が認証した「みらいプレミアム」の特産品も販売している。



**岡田寒泉の祠**  
●江戸幕府代官職のとき、地元に貢献し、寒泉は生神様として崇められ、村民の手によって生祠が建てられた。



**小目沼橋**  
●昭和31年に作られた欄干のない木製の橋。映画やドラマの撮影に度々使われる。

Vol.60

駅からのふるさと紀行 常総線 小絹駅

# 小絹駅

◆次回は4月23日 「筑波観光鉄道 宮脇駅」を掲載予定です。  
※イラストはイメージです。



●相対式ホームの2面2線を有する地上駅。三角屋根の駅舎は住宅・都市整備公団と旧谷和原村の協力により、平成2年に改築された。



●小絹駅に停車するキハ2200形の車両。



●駅前のロータリー。市のコミュニティバス「みらい号」も発着する。



発展を続けるつくばみらい市西部 独特な雰囲気味わえる趣ある小絹駅  
大正2年の常総線開業に伴って設置された小絹駅。駅名は明治22年から昭和30年まで存在した小貝川と鬼怒(絹)川に挟まれた村の名前を現在に伝えている。駅の構造は2面2線の相対式。西側に駅舎があり、守谷や取手方面への列車が停車する。シンボルは三角屋根の駅舎と桜の太木。濃い緑に包まれ、歴史を感じさせる素朴な駅の風景は、テレビドラマの撮影などにも使用されている。  
昭和56年の常磐自動車道谷和原インターチェンジ開設、常総ニュータウンの開発などにより、近年、地域は大きく様変わりした。一方で、歴史ある地域であることから、周辺には由緒ある寺社も多い。都市と自然、そして歴史が混在する小絹地区。発展する県南地域を象徴する地域をのんびりと散策してみよう。

## ● 散策コース ●

まずは駅の南西にある小目沼橋を目指す。途中、日光神社や平将門によって創建された禪福寺がある。その道中は、都市化が進む一方、米の一大産地を象徴する田園風景が広がっている。小貝川堤防の上ると小目沼橋が見える。映画やドラマの撮影に度々使われる趣ある歩行者専用の木製橋だ。橋の近くには下小目の八坂神社があり、鳥居から小貝川の堤防を見ると岡田寒泉の祠がある。岡田寒泉は江戸時代後期の儒学者で、幕府儒官を務めた後、この地の代官職となり、勤儉貯蓄や開墾を奨励し、産児養育料を幕府に支給させるなど子どもを大切にすることから、「生神様」とあがめられた。

小貝川を北上すると聖徳寺がある。聖徳太子が創建した由緒ある寺だ。近くの県道3号線沿いには地域の特産品がそろう「みらいっ娘」があるので立ち寄りてみよう。そこから西に向かうと小絹八坂神社がある。創建は室町時代。ササノオノミコを祭神とし、毎年7月の祇園祭では、新宿神楽の舞いや山車が集落をまわる。

八坂神社から南下すると、多くの桜が植えられた絹の台桜公園や小川が流れるせせらぎの小路がある。心地よい風に吹かれながらの散策で、春の喜びを体感したい。



市の鳥「ひばり」と江戸時代の冒険家「間宮林蔵」をモチーフにした、つくばみらい市のイメージキャラクター。

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく  
**ISUZU**  
**茨城いすゞ自動車株式会社**  
本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(代)  
<http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>